

WHY TOKYO BIENNALE? 東京ビエンナーレ 2020 構想展

[訂正 / 更新版]

WHY Tokyo Biennale? 東京ビエンナーレ 2020 構想展
開催のご案内

会期：2018 年 9 月 22 日（土）～ 10 月 14 日（日） 11:00 - 20:00 会期中無休／入場無料
会場：3331 Arts Chiyoda 1F メインギャラリー
主催：東京ビエンナーレ市民委員会、3331 Arts Chiyoda、（一社）コマンド N
後援：毎日新聞社（予定） 協力：東京文化資源会議

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先] 東京ビエンナーレ市民委員会 事務局
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 アーツ千代田 3331 内 TEL: 03-6803-2441（代表） FAX: 03-6803-2442
E-MAIL: pr@tokyobiennale.jp <展覧会担当：船橋（コマンド N）／広報担当：彦根（3331 Arts Chiyoda）>
URL: <https://tokyobiennale.jp/2018exhibition/>

WHY?

“私”から“私たち”へ。 まちの創造力が目覚める、開かれた実験の場

文化的活動には、これまで結びつかなかったものを結びつけたり、お互いを引きつける力があります。多様な価値観を持ち、それぞれのスタイルで暮らす人々が集う東京は、どこで・誰が・何をしているのかが見えにくく、「私」という「個」の存在は際立っても、まちそのものや、過去・未来を含めてそこに暮らす「私たち」の存在をリアリティを持って感じる事が難しくなっているのかもしれません。ただ、この東京で、あるいは社会全体で誰もがどこかで感じている“不安”のようなものは、「個」の考えや存在では拭うことができません。それは「私」という個の意識が、「私たち」という俯瞰した意識に広がったときに、はじめて問題の核心に辿り着いたり、解決策を見いだせるのではないのでしょうか。

「東京ビエンナーレ」は、戦後の復興期に上野の東京都美術館で行われていた国際展です。中でも 1970 年、「人間と物質」をテーマにした第 10 回は日本の美術史に大きな足跡を残すものでした。そこから半世紀が経ち、アートや芸術のあり方も大きく変化した今の東京で、新しいフレームや仕組みを実験する場として「東京ビエンナーレ」を 2020 年に始めようとしています。これはアートのための国際催事ではなく、まちに宿る文化資源を丁寧に感じ取り、その可能性を引き出し、「私」から「私たち」へ意識や創造的な活動を広げるフレームです。そのため、参加するのはアーティストだけではありません。アート、デザイン、建築、まちづくり……etc. あらゆる方向からアプローチしていきます。

まずは、ここからどんなことが起ころうとしているのか？ ほんの少し未来のビジョンを『WHY Tokyo Biennale ? 東京ビエンナーレ 2020 構想展』でみなさんと共有し、議論することから始めたいと思います。本展は「東京ビエンナーレ」のプレゼンテーションでもあり、「私たち」と一緒に挑戦する人が集う場でもあるのです。

東京ビエンナーレ市民委員会 共同代表
小池一子、中村政人

※「日本国際美術展（東京ビエンナーレ）」の記述に関して一部訂正を行いました。
(2018 年 9 月 12 日)

WHAT?

展覧会概要

「日本国際美術展（東京ビエンナーレ）」とは、1952 年から東京・上野で開催された国際美術展で、1970 年の〈人間と物質〉をテーマに掲げた第 10 回は日本の美術史に大きな足跡を残すものでした。今、美術のあり方が多様化してきている東京で、これからの時代の「東京ビエンナーレ」を始めようとしています。この度、2020 年から始まる東京ビエンナーレの実現に向けて「東京ビエンナーレ市民委員会」が発足し、アート、建築、ファッション、コミュニティデザイン、エンターテインメント等、様々な分野の第一線で活躍する企画ディレクターと、展開地域への橋渡し役となる複数のエリアディレクターが集結しました。本構想展では、新たにつくり出す東京ビエンナーレの構想並びに取り組みの紹介と、「東京ビエンナーレ 2020」への序章として企画プランの一部を絵画や映像、立体等を用いながらプレゼンテーションいたします。同時に本構想の対象エリアとなる地域の多層的な歴史の紹介や、1970 年に開催された「第 10 回日本国際美術展（東京ビエンナーレ）」の資料展示も行い、多角的な視点で「東京ビエンナーレ 2020」のビジョンを浮かび上がらせてみます。

本展タイトル「WHY Tokyo Biennale ?」が示す通り、この時代に新たな東京ビエンナーレを立ち上げることを意味を問い、誰もがそこに参加できる開かれた場を創造して参ります。

●東京ビエンナーレ市民委員会とは

「東京ビエンナーレ」の最大の特徴は「市民＝私たち」が主役ということです。まちづくりやアート活動に熱心な個人・団体のみならず、企業や大学、町会など、様々な単位の市民によって構成されています。本取り組みを通じてどのようにまちと社会の未来を描いていくのか、方向性を議論し、その実現に向けて企画を実践していきます。本市民委員会の代表は、クリエイティブ・ディレクターの小池一子とアーティストの中村政人が共同で務めます。

●エリアディレクターとは

「東京ビエンナーレ 2020」は千代田区・中央区・文京区・台東区の 4 区にまたがるエリアの様々な場所で展開を想定しています。アートのためだけの国際催事に留めることなく、まちの文脈に寄り添い、顔の見える距離感の中で誰もが創造的にビエンナーレに関わることができるよう、まちの人と場所との関係づくりを重視しています。開催エリアに暮らし・働きながら、想いを持ってまちづくりの活動を行う方々に「エリアディレクター」として参画していただき、ビエンナーレを通じて、企画ディレクターとともにまちや地域の可能性を引き出す役割を担っていただきます。

●企画ディレクターとは

「東京ビエンナーレ 2020」開催に向けて、アート、建築、ファッション、コミュニティデザイン、エンターテインメントetc...様々な分野の第一線で活躍する方々が企画ディレクターとして参画。エリアディレクターの協力を得ながら、まちを舞台にユニークで斬新なプロジェクトを実現していきます。

●「日本国際美術展（東京ビエンナーレ）」とは

1952 年～1990 年の間に 18 回に渡り、上野の東京都美術館等で開催された国際美術展です。美術評論家の中原佑氏をコミッションに迎えた第 10 回目の開催では、従来の国別参加制と受賞制度を廃止し、〈人間と物質〉をテーマに中原氏が国内外から 40 名のアーティストを選定。もの派、アルテ・ポーヴェラ、コンセプチュアル・アート、パフォーマンス・アートなど、同時代の先鋭的な美術表現を結集させた展覧会として、後世の日本における国際美術展のあり方に大きな影響を与えました。

※「日本国際美術展（東京ビエンナーレ）」の記述に関して一部訂正を行いました。（2018 年 9 月 12 日）

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】 東京ビエンナーレ市民委員会 事務局

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 アーツ千代田 3331 内 TEL: 03-6803-2441（代表） FAX: 03-6803-2442

E-MAIL: pr@tokyobiennale.jp <展覧会担当：船橋（コマンド N）／広報担当：彦根（3331 Arts Chiyoda）>

URL: <https://tokyobiennale.jp/2018exhibition/>

WHAT?

会場では各ディレクターの構想をプレゼンテーションするほか、アート・カルチャー・サイエンス・コミュニティ・デザインなど、多方向から“東京”を見つめるディスカッションイベントを開催

* 申込方法等の詳細はウェブサイトにてご覧ください

『東京ビエンナーレ』でまちは何が変わるのか？

9 月 29 日 (土) 13:30-15:30 * 参加無料

東京文化資源区の観点から「東京ビエンナーレ」を考える

□登壇者

栗生はるか (文京建築会ユース代表 / 東京文化資源会議「本郷のキオクの未来」PT 座長)
椎原晶子 (地域プランナー / NPO 法人たいとう歴史都市研究会理事長 / 株式会社まちあかり社取締役 / 東京文化資源会議「リノベーションまちづくり制度研究会」プロジェクトマネージャー)
道明葵一郎 (株式会社道明 代表取締役 / 東京文化資源会議「ナショナルハウス構想」PT プロジェクトマネージャー)
柳 与志夫 (東京大学大学院情報学環特任教授 / 東京文化資源会議事務局長)
吉見俊哉 (東京大学大学院情報学環教授 / 東京文化資源会議幹事長)
中村政人 (アーティスト / 3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター / 東京藝術大学教授)

□参加費 無料

アーティストの感性の世界に「数学」はどんなアプローチが可能か？

10 月 5 日 (金) 19:00-21:00

Artificial intelligence ∞ Artists ∞ Artificial life

□登壇者

池上高志 (東京大学大学院広域システム科学系教授)
新堀 学 (建築家)
椿 昇 (現代美術家 / 京都造形芸術大学美術工芸学科教授)

□参加費 ¥1,500

江戸は、日本の「ヴェネツィア」とも称される水の都だった。
水脈や水辺から、アートを通して水都・東京を再発見する可能性とは？

10 月 6 日 (土) 19:00-21:00

「水」がひらく、東京の可能性

ーアートを通じて巡り会う水都・江戸と東京ー

□登壇者

陣内秀信 (法政大学特任教授 / 法政大学江戸東京研究センター 初代センター長)
四方幸子 (クリエイティブ・キュレーター)
中村政人 (アーティスト / 3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター / 東京藝術大学教授)

□参加費 ワンドリンク制 500 円 □協力 法政大学江戸東京研究センター

開いているようで、開いていない!? まちの機能を活性化するために公共空間に必要なものとは？

10 月 8 日 (月・祝) 15:00-17:00

公共空間をシェアする

□登壇者

馬場正尊 (建築家 / Open A 代表)
竹内昌義 (建築家 / みかんぐみ共同代表)

□参加費 ¥1,500

情報が蓄積した今、「東京」と「デザイン」を人々の暮らしに漂う「地場」と「気配」から検証

10 月 13 日 (土) 15:00-17:00

東京の地場と気配とデザイン

□登壇者

大原大次郎 (グラフィックデザイナー)
セキユリヲ (デザイナー)
田中義久 (グラフィックデザイナー / 美術家)
原田祐馬 (デザイナー)
佐藤直樹 (3331 Arts Chiyoda デザインディレクター)

□参加費 ¥1,500

特別開催

「東京ビエンナーレ 2020」の概要や組織の概略とともに、構想展 (本展) の内容を共同代表、企画ディレクター等関係者が発表

9 月 22 日 (土) 14:30-15:15 * 参加無料

「公開プレス発表会」 ※詳しくは P7 をご覧下さい

□登壇者

小池一子、中村政人 (東京ビエンナーレ市民委員会 共同代表)
東京ビエンナーレ 2020 企画ディレクター・エリアディレクター 他

□参加費 無料

“WHY ?” 渦巻く「東京ビエンナーレ」を共同代表が語るトークイベント

9 月 25 日 (火) 19:00 - 21:00 * 参加無料

東京ビエンナーレ市民委員会共同代表が語る
“WHY Tokyo Biennale?”

□登壇者

小池一子 (クリエイティブ・ディレクター / 十和田市現代美術館館長 / 武蔵野美術大学名誉教授)
中村政人 (アーティスト / 3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター / 東京藝術大学教授)

□参加費 無料

「東京ビエンナーレ」をどのように始めるか？

展示空間の中で自由な雰囲気のもと意見交換する公開ミーティング

10 月 12 日 (金) 19:00-21:00 * 参加無料

Powwow/47 「東京ビエンナーレのはじめ方」

□登壇者

東京ビエンナーレ市民委員会メンバー
東京ビエンナーレ 2020 企画ディレクター・エリアディレクター 他

□参加費 無料

WHO?

アート、建築、ファッション、コミュニティデザイン、エンターテインメント等、多彩な分野の第一線で活躍するディレクター陣が集結

東京ビエンナーレ市民委員会 共同代表



小池一子

(クリエイティブ・ディレクター / 十和田市現代美術館館長 / 武蔵野美術大学名誉教授)



中村政人

(アーティスト/3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター / 東京藝術大学教授)

「WHY Tokyo Biennale ? 東京ビエンナーレ 2020 構想展」
プレゼンター (企画ディレクター)



「猥雑に浸かる」

伊藤 ガビン

(編集者 / 女子美術大学短期大学部教授)



撮影：本田雄士

「身のまわりにある科学に気がつく」

江渡 浩一郎

(メディアアーティスト)



「デザインに別視線を導入する」

佐藤 直樹

(3331 Arts Chiyoda デザインディレクター)



「開け！ 水」

四方 幸子

(クリエイティブ・キュレーター)



「東京をリノベーションして本当の公共空間をつくる」

嶋田 洋平

(らいおん建築事務所代表取締役)



「パブリックをシェアする」

竹内 昌義

(建築家 / みかんぐみ共同代表)



「アートを数学する」

椿 昇

(現代美術家 / 京都造形芸術大学美術工芸学科教授)



「都市をまとう」

津村 耕佑

(ファッションデザイナー)



撮影：水谷

「空を自由に飛びたいな (物理)」

八谷 和彦

(メディアアーティスト)



「のっそりとかえる」

藤 浩志

(美術家 / 秋田公立美術大学大学院教授・副学長)



「要らないものが、誰かの力になる」

山崎 亮

(studio-L 代表 / コミュニティ・デザイナー / 社会福祉士)



「三都を歩けば歴史はズレる」

李 美那

(キュレーター)

WHEN? HERE?

- 名称 : WHY Tokyo Biennale ? 東京ビエンナーレ 2020 構想展
- 会期 : 2018 年 9 月 22 日 (土) ~ 10 月 14 日 (日) 会期中無休
- 時間 : 11:00-20:00 ※最終入場 19:30
- 料金 : 無料 ※一部イベントは有料
- 会場 : 3331 Arts Chiyoda 1F メインギャラリー
(〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-11-14)
- 主催 : 東京ビエンナーレ市民委員会、3331 Arts Chiyoda、(一社)コマンドN
- 後援 : 毎日新聞社 (予定)
- 協力 : 東京文化資源会議
- URL : <https://tokyobiennale.jp/2018exhibition/>

<同時開催>

池田晶紀 Portrait Project 2012-2018 「いなせな東京」

- ☐ 会期 : 2018 年 9 月 22 日 (土) ~ 10 月 14 日 (日) 会期中無休 / 入場無料
- ☐ 時間 : 11:00-20:00 (最終入場 19:30)
- ☐ 場所 : 3331 Arts Chiyoda 1F メインギャラリー
- ☐ 主催 : (一社) コマンド N、3331 Arts Chiyoda
- ☐ 後援 : 千代田区、一般社団法人千代田区観光協会
- ☐ 協賛 : 新日鉄興和不動産株式会社、一般社団法人淡路エリアマネジメント
- ☐ 協力 : 株式会社ゆかい、安田不動産株式会社

3331 GALLERY #035 3331 ART FAIR recommended artists

井田大介 個展「Photo Sculpture」

- ☐ 会期 : 2018 年 9 月 22 日 (土) ~ 10 月 14 日 (日) 会期中無休 / 入場無料
- ☐ 時間 : 11:00-20:00 (最終入場 19:30)
- ☐ 場所 : 3331 Arts Chiyoda 1F 3331 Gallery (1F 104)
- ☐ 主催 : 3331 Arts Chiyoda
- ☐ 助成 : 公益財団法人野村財団
- ☐ 協力 : 株式会社アビスト、アルテック株式会社、株式会社ストラタシス・ジャパン、株式会社ミマキエンジニアリング

報道関係者各位

「東京ビエンナーレ2020」
「WHY Tokyo Biennale? 東京ビエンナーレ2020構想展」
公開プレス発表会のご案内

2020 年に開催を予定する「東京ビエンナーレ 2020」の概要や構成、組織体制の概略と本展の内容を、東京ビエンナーレ市民委員会の共同代表である、小池一子と中村政人がプレスの皆様に向けてご紹介いたします。当日は、市民委員会の委員をはじめ企画・エリアディレクターなど、関係者の皆様にもご出席・ご登壇いただく予定です。

またプレス発表会終了後の 15:30 より、アーツ千代田 3331 1F コミュニティスペースにて、「アーツ千代田 3331 八周年記念」並びに本展と同時期開催の「池田晶紀 Portrait Project 2012-2018『いなせな東京』」展との合同レセプションパーティを行います。

ご多忙のところ恐れ入りますが、ぜひご来場くださいますよう、お願い申し上げます。

日時：2018 年 9 月 22 日（土）14:30-15:15

場所：3331 Arts Chiyoda メインギャラリー

内容：「東京ビエンナーレ 2020」開催概要・全体構成のご紹介

企画・エリアディレクターのご紹介

「WHY Tokyo Biennale ?」展覧会のご紹介

大変お手数ではございますが、御出欠のお返事をFAX またはメールにて

9 月 20 日（木）17:00 までにお知らせください。

■FAX 番号：03-6803-2442 ■メールアドレス：pr@tokyobiennale.jp

■宛 先：東京ビエンナーレ市民委員会 事務局宛（3331 Arts Chiyoda 内）

貴社名／御所属			
(フリガナ) 御芳名	* 御同伴者のお名前も御記入ください。全員のお名前と役職もお知らせいただけますと幸いです。		
御出欠	9月22日(土)	14:30-15:15 プレス発表会 15:30-17:30 合同レセプション	☐ 御出席 ☐ 御欠席 ☐ 御出席 ☐ 御欠席
TEL			
E-MAIL			

【お問い合わせ先】 東京ビエンナーレ市民委員会 事務局

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 アーツ千代田 3331 内 TEL: 03-6803-2441 (代表) FAX: 03-6803-2442

E-MAIL: pr@tokyobiennale.jp <展覧会担当: 船橋 (コマンド N) / 広報担当: 彦根 (3331 Arts Chiyoda)>

URL: <https://tokyobiennale.jp/2018exhibition/>